

烏介部衆、至大中元年、詣幽州降、留者漂流餓凍、衆十萬所存止三千已下、烏介嫁妹與室韋、爲廻鶻相美權者

逸隱賸逼諸廻鶻、殺烏介於金山、以其弟特勒邊捻爲可汗

と曰へり、之に據れば烏介の部衆は大中元年（八四七年）會昌六年の翌年幽州に至りて唐に降り、殘留したるものも漂流

し或は餓凍に陥り、僅に三千に充たざるに至りしが、遂に逸隱賸の爲に殺さるゝに至れりと爲すものなれば、可汗の死は勿論大中元年若しくは其の以後の事と見ざる可らず、然れ共余輩は此の記事に關しても亦大に疑を有するものなり、何となれば舊唐書廻紇傳は更に之に續きて

以其弟特勒邊捻爲可汗、復有衆五千已上、其食用糧羊皆取給於奚王碩舍朗、大中元年春、張仲武大破奚衆、其廻鶻無所取給、日有耗散

と記せり、此の如く大中元年烏介の部衆が幽州に詣りて降りし後、烏介が殺され、新に邊捻可汗が立ちしに、同年春張仲武が奚を征伐し、之を破りし爲に、可汗の衆日に耗散したりとするは、此等の事實が、其の日時の關係に於て餘りに相接し、殆んど信を措き難きと共に、かく大中元年なる年を重記することが既に疑を以て見ざる可らざるものなればなり、而して此等の事實の中、大中元年張仲武が大に奚を破り、俘獲する所甚だ多かりしことは新唐書張仲武傳、本紀、回鶻傳等にも記され、疑ふ可らざる事實なれども、大中元年に於て烏介の部衆の幽州に降りしことに就きては、諸書一も之を記するもの無く、殆んど其の事實たるを信ずる能はず、既に此の事實にして信じ難しとすれば、其の下に記されたる烏介可汗の死も亦大中元年の事とは信じ得べきに非るや論無し、只だ張仲武が此の年奚を征したる事實は疑を挾む可きに非れば、可汗の死が之より以前に在りしなるべきは疑ふべき餘地ある無し、